

# Top Interview

トップインタビュー

— 変革に挑む —

まとめ／堀水潤一 撮影／亀田万太郎

## 名古屋学院大学 学長 木船久雄



### 名古屋は製造業の町。 日本にいながら世界との接点を 常に意識できるような人材に

#### 本

学は、地域で活躍し得る人材の養成を目的に地元経済人の支援を受けて1964年に開学しました。経済学部に加え、89年に外国語学部、92年に商学部、2010年にスポーツ健康学部とリハビリテーション学部、そして、この13年に法学部が誕生したことで6学部10学科の総合大学へと発展をとげました。今なぜ法学部なのか。グローバル化した世界では「あ・うんの呼吸」などは通用せず、ルールや規範を踏まえた交渉が求められます。リーガルマインドが必要なのは司法関係者だけではなくありません。「企業人や市民にも必要とされます。大教室での講義という従来型のスタイルではなく少人数体制で、そうしたことをいねいに教えて

いきたいと考えています。

キリスト教主義の大学として、建学時から国際交流や語学教育にも力を入れていきます。交換留学の協定先は世界78大学。学生数5000人台の大学としてはトップレベルの数字でしょう。キャンパスの目の前には国際会議場があり、生物多様性条約の締約国会議が開催された際には、多くの学生がボランティアで通訳を務めました。

名古屋は製造業の町です。中小の部品会社などはドメスティックなイメージもありますが、いまや海外とつながっていない企業などありません。たとえ日常的に英語を使うことがないとしても国際感覚が乏しくてはビジネスなど成り立たないのです。日本にいながら、世界

との接点を常に意識しているような人材を育てたく思います。4万人の卒業生の中には1000人ほどの企業経営者があり、「NGUエグゼクティブ同友会」という団体も組織されています。そうした方々との交流も学生にいい刺激を与えてくれます。

先進的なICT環境も本学の特色です。02年から運用しているCCS(キャンパスコミュニケーションサービス)という学内ネットワークは、学生一人ひとりに最適な情報を提供する教育支援システムです。学習履歴などが蓄積されるほか、自学自習用サイトには国家試験の過去問題や、教員が自作した3万以上におよぶ経済学の問題などが用意されています。正答率の学内ランキングなどもわかり、楽しみながら学べると、学生からも好評です。

このほか地域連携プロジェクトや、ボランティア活動、インターシップ、公開講演会などの活動も盛んです。「何かおもしろいことはないかな」と探している学生や、「自分のポテンシャルは何だろう」と迷っている若者にこれからも刺激を与えることでしよう。さまざまな体験を通じて人は自分の適性や志向に気づくものです。そういう機会を提供し続けていきたいと思えます。

【学長プロフィール】きぶね・ひさお●1955年生まれ。早稲田大学大学院商学研究科博士課程前期修了。日本エネルギー経済研究所主任研究員、マサチューセッツ工科大学客員研究員、カリフォルニア大学ローレンスバークレー国立研究所研究員などを経て92年名古屋学院大学経済学部助教授、98年同教授。同大学経済学部長、大学院経済経営研究科長を経て、2011年より現職。

【大学プロフィール】1887年創立の愛知英語学校を前身に1964年開学。経済学部(経済学科、総合政策学科)、商学部(商学科、経営情報学科)、法学部(法学科)、外国語学部(英米語学科、中国コミュニケーション学科、国際文化協力学科)、スポーツ健康学部(スポーツ健康学科)、リハビリテーション学部(理学療法学科)の6学部10学科。